

県民の皆さんの取組状況

順不同

取組団体名	取組事例
BPW 和歌山クラブ	<p>★《特記すべき活動》</p> <p>5月29日（土）認定NPO法人日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会（オンライン） 共通テーマ：SDGs達成まで9年を切った！真のジェンダー平等実現へ、ともに走り続けよう！」</p> <p>11月27日（土）近畿ブロック研究会・《ヤングスピーチコンテスト》 ＜分科会＞ GGGI 120位からの脱却！ ～議論から行動へ。もう議論している場合じゃない！～ 政治、経済、教育、健康</p> <p>★例会（毎月第3土曜日 13:30～15:30）</p> <p>4月17日（土） ①日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備（9名） ②イコール・ペイ・デイの広報活動について</p> <p>5月11日（月）・14日（金） イコール・ペイ・デイの広報活動実施（行政・経済団体・連合）（4名）</p> <p>5月29日（土）認定NPO法人日本BPW連合会総会・和歌山大会（14名）</p> <p>7月17日（土）BPW和歌山クラブ総会（ハイブリッド）（4+6=10名）</p> <p>8月21日（土）意見交換会「これからの和歌山クラブについて」（6名）</p> <p>9月18日（土）国際EPD全国大会参加（リモート）（4名）</p> <p>10月16日（土）近畿ブロック研究会開催準備（6名）</p> <p>11月27日（土）近畿ブロック研究会開催（ハイブリッド）（12名+1名）</p> <p>12月18日（土）近畿ブロック研究会分科会報告と振り返り（5名）</p> <p>2022年</p> <p>1月15日（土）卓話 和歌哲也さん（公益財団法人わかやま産業振興財団） -「経済についてイロハのイ」- 和歌山の産業-（8名）</p> <p>2月19日（土） 和歌山県男女共同参画基本計画（第5次）（案）に対する意見提出について討議（リモート）（7名）、意見書を県へ提出</p> <p>3月19日（土）①新年度事業について（6名） ②イコール・ペイ・デイ本年度の取組みについて</p> <p>《その他》</p> <p>・認定NPO法人日本BPW連合会2021年総会・和歌山大会準備実行委員会4回開催</p>

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
GEはしもと サピュイエ	<ul style="list-style-type: none"> ★ 毎月1回例会を実施。 ★ 女性の居場所事業 サピュイエほっとサロンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・9月29日 コロナ禍で思うこと おしゃべりしませんか？ ・11月30日 OOらしさでしんどくなってませんか？ ・2月15日 良い母・妻・娘をやめてみる？（コロナ禍により中止） ★ 市内中学校にてデートDV防止授業を実施（橋本市と協働） <ul style="list-style-type: none"> ・7月5日、6日紀見東中学校3年生4クラス ・7月9日、12日高野口中学校3年生3クラス ・12月21日 紀見北中学校2年生2クラス ・1月13日、17日、18日、21日 橋本中央中学校3年4クラス クラス毎に授業を行った。 ★ 橋本市「まなびの日」（11月14日）にて女性への暴力防止の啓発活動パープルリボンキャンペーンを行った。りいぶるの小中高生による男女共同参画啓発ポスター入賞作品の展示、パープルリボンツリー啓発、アンケート、手作り作品の啓発グッズを配布を実施した。 ★ 和歌山県性暴力被害者支援ボランティア養成講座に参加 ★ 和歌山県DV被害者支援ネットワーク会議 研修 参加
HML（ハッピー ママライフ）	<ul style="list-style-type: none"> ★ 子どもにやさしいまちづくり創生基盤整備事業」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもへの暴力防止のための基礎講座」を開催。8月7日、8日、9日 講師 CAPセンター・JAPANTレーナー 原田薫さん ・「子どもにやさしいまちってどんなまち？」 勉強会の開催 10月17日 講師 アクト研究室 鳥淵朋子さん ★ 上記2事業は和歌山県「地域・ひと・まちづくり補助事業」を活用 ★ 御坊市教育委員会「子どもへの暴力防止」委託事業実施 御坊市内の小学3年生を対象に CAP ワークショップを実施 ★ 児童虐待防止月間に啓発を兼ねたキフパンの販売 紀の川市パン・ド・パニエ、有田市 field's R 協力 ★ チーム紀伊水道交流会開催に協力 セクシャルマイノリティとその理解者をつなぐための交流会に参加協力
JA和歌山中央会	<ul style="list-style-type: none"> ★ JA女性役員研修会の開催(8月1日) コロナ感染拡大のため中止となる ★ 県女性会と中央会・連合会役員との対話集会の開催（12月） 参加者：女性会役員他 内容：女性会活動・JA事業他 ★ JAへの女性参画促進 <ul style="list-style-type: none"> ・女性の運営参画県域指標にもとづく参画促進 正組合員加入：50% 総代への就任：30% 理事への登用：15%
ウィメンズスタディ ズ熊野	<ul style="list-style-type: none"> ★ 定例学習会 <ul style="list-style-type: none"> 年1回（新宮市人権講師、人権活動講師より） 月1回（DV、性暴力、児童虐待、ハラスメント等）

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
ウィメンスタディズ熊野 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ★ 講師派遣事業 デートDV防止講座：県立新宮高校定時制、県立新翔高校 熊野市立新鹿小学校・中学校 ★ 相談事業（随時） DV、ストーカー、児童虐待、人間関係等の面接及び電話相談 ★ 県庁及び新宮市の啓発事業への参加 ★ 他団体との交流 パープルリボン熊野（熊野市）
つばさの会・和歌山	<ul style="list-style-type: none"> ★ 5月22日（土） 総会（ZOOM）
和歌山イコール会議	<ul style="list-style-type: none"> ★ 和歌山イコール会議第9期（令和3年10月～4年9月）会員総会（34名出席） <ul style="list-style-type: none"> ・第9期の活動に向けた総会は、コロナ第5波での感染状況から当初の計画を変更しオンライン参加を中心に、ZOOM 運営会場（りいびる会議室A）も併用し開催（10月17日10:00～）し、第8期の事業・決算の報告と第9期の事業・予算の計画、役員・運営委員の改選を承認した。 ・全員協議の場では、和歌山市の水管橋崩落での断水時のトイレ問題について、男性に比べて深刻な問題となりがちなことから、簡易携帯「マイ・トイレセット」配布等の支援活動について意見が出され、今後の取組課題とした。 ★ 総会記念事業「オンライン・リレートーク in Wakayama～可能性120%！和歌山のあたらしい魅力発見へ～」（80人参加） <ul style="list-style-type: none"> ・総会に続く午後の記念事業は地域づくり部会が企画・運営した。 ・コロナ禍により暮らし方や価値観が大きく変わる中、多様な取組をされている5人の方々がオンラインで繋がり、リレートークや意見交換を通して、私たちが和歌山で暮らし続けるために何が必要かを考え、和歌山の課題解決にむけた新しい視点を持ち、持続可能な地域「これからも住み続けたい元気な和歌山」への推進力にしたいと開催した。 <p>演題、講師等は以下のとおり。</p> <p>トーク① IT+人 ワークーションや「熱中小学校」での取組 浦 聖治 様（白浜町／クオリティソフト㈱代表取締役社長、熱中小校長）</p> <p>トーク② 地域+大学 地域と大学がともに地域を作る「紀伊半島価値共創基幹」 西川 一弘 様（和歌山市／和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹准教授）</p> <p>トーク③ 女性+起業 古民家を改修したゲストハウス「Lacoma」経営ほか 松山 沙月 様（古座川町／株式会社 Lacoma オーナー）</p> <p>トーク④ 移住+農家 東京→地方 「おいしさ保証付き」柑橘の産直農家 吉瀬 雄也・りえ ご夫妻（紀美野町／きみのフルーツ経営者）</p> <p>トーク⑤ 5人の出演者の意見交換 進行役：金川めぐみ/イコール会議副代表</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 役員・運営委員会議 <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで3回開催し、第9期総会の内容・運営等を協議したほか、2022年12月に迎える設立10周年にむけて防災部会作成の2つの記念事業の計画についても協議した。（7月31日、10月3日、3月6日）

取組団体名	取組事例
<p>和歌山イコール会議 (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記念事業の1つとなった4地域ブロック会議と連携した「マイ・トイレセット」備蓄事業について、コロナ禍で低調となっている活動の活性化も視野に、役員・運営委員も積極的に取り組むこととなった。 ★ 6部会とブロック会議 長引くコロナ禍にあって、対面から殆どオンラインでの活動等に変更し取り組んだ。 各部会・地域ブロックの活動は以下1～7に記載のとおり。 1 地域づくり部会 男女共同参画による住みやすい地域をめざして活動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・前出の第9期総会記念事業を部会で担当しオンラインによる事前協議(4月15日、5月17日)を行い、テーマを「可能性120%!和歌山の新しい魅力～持続可能な地域づくりへ～」として企画し当日の運営を行った。(10月17日<日>13:30～) ・参加者アンケートでは、「地域の魅力について改めて考える機会になった」「これからの和歌山に希望が持てるような内容だった」「年齢、性別、職業が片寄りなく、皆さんの意欲的な職業観が良かった」ほか多数の好評をいただいたことは今後の活動にむけたエールとなった。 2 防災部会 災害時や復興時の男女共同参画による取組が進むことをめざし活動した。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害と女性の問題を考えるきっかけづくりや災害時の県内女性のネットワーク構築にむけて、毎年地域に出向いて実施している災害時の食事作りなどは、コロナ禍のため見送った。 ・オンライン部会を6回開催(4月18日、6月13日、8月8日、10月31日、1月23日、2月26日の各日曜日10:00～)、毎年開催してきた7回目となる防災セミナーの実施と、防災部会が担当となった10周年(第10期総会)記念事業の計画づくりに取り組んだ。 ・第7回防災セミナーは、初のオンライン開催にチャレンジした。被災後の生活再建に視点をあて、被災後の自宅再建等は男性が中心となり進めることも多いが、女性も男性も事前に支援制度を知っておくことで、互いに意見を出し合って女性の視点も取り入れた再建に取り組めると考え、セミナーでは万が一に備える知識として国や地方自治体等による多種多様な支援制度を学んでもらおうと計画、以下のとおり開催した。 <p>和歌山イコール会議「第7回(オンライン)防災セミナーin和歌山」 (74人参加)</p> <p>令和3年6月27日(日)10:00～12:00 (ZOOM運営会場/りいびる会議室A)</p> <p>セミナー①「生活再建カードから学ぶ被災後の支援制度のあれこれ」 講師：永野海様(弁護士、日本防災士機構防災士/ふじのくに防災士)</p>

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>セミナー②「災害時の必需品/マイ・トイレの作り方」 講師：市場 美佐子（防災士、和歌山イコール会議/防災部会長） 参加者アンケートでは、「全く知らなかった支援制度について驚いた。勉強になった」「避難の後の生活の再建についての知識が本当に薄かったことが分かった。」「災害時は男性と行政が主導を取られ、女性と子どもの視点が入りません。その中でこのような取組みは頼もしい」など、今まで殆どなかった被災後を想定した取組は、非常に好評であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10周年記念事業の計画づくりは、これまでの防災セミナー等で取り組んできた災害時における食時やトイレの問題をとりあげ、以下の2事業を実施することを計画した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 設立10周年（第10期総会）記念講演会 毎年の総会記念講演会を「災害と食」をテーマに行うこととし、その企画内容作成に取り組んだ。 ② 簡易携帯トイレ「マイ・トイレセット」備蓄 大型災害時に迅速対応し配布できるように会員で多数のセットを作成し備蓄することを計画、4地域ブロック会議の活動と連動し取組むこととした。 <p>3働き方部会 男女共同参画のもとに女性が活躍できる社会・職場をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省制作の動画「不妊治療と仕事の継続について」をオンライン部会で視聴後、意見交換をした。仕事を持つ女性が不妊治療を行うことの難しさや様々な課題があることなどを知る機会となった。併せて、これらの問題に対応するために、不妊治療に取り組む女性を支援しようとする事業所に対する国の支援制度があることなども学んだ。（2月6日<日>10:00～） <p>4 子育て・介護環境部会 女性が専ら担うことが多い子育てや介護での男女共同参画をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性応援リーフレット（保育活動編）ほかの配布活動に取り組んだ。 ・日本保護司会の講演会「保護司のための発達障害の理解と対応」を再配信期間（6/24～26）に各自が自由にYouTubeで視聴し、発達障害について学習した。 ・オンライン研修会『人生の最期まで「食べたい」を支援する』に参加した。介護の場での正しい食事介助などについて知識を深める機会になった。（3月16日<水>13:30～） <p>5 暴力防止部会 女性に対する暴力の根絶をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県内（JRわかやま駅前）で行なわれたフラワーデモに参加し、街頭スタンディングによる抗議活動を行った。（4月11日<日>10:00～） ・人権フェスタ2021（11月20日<土>10:00～16:00 和歌山ビッグホール）では、参加にむけて活動内容を事前に協議（8月16日<木>）のうえ、DV防止をテーマにブース出展した。コロナ禍で開催の中止が続いていたが、会員同士が顔を合わせての活動ができた。会場では、会員が考案した「降りやまない暴力の雨が止むように！」とパープルリボンをビニール傘に張り付けていただく啓発アクションほか、参加者むけワークショップに多数の来場者が参加し賑わった。フェスタ終了後は反省会を開催し、今後の活動展開について話し合った。（3月31日<木>13:00～）

取組団体名	取組事例				
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>6 多様な生き方応援部会 多様な生き方や活躍を知り学ぶことによる女性のエンパワメントをめざし活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、県内の地域で活躍する女性や特色ある場所などを訪ねるフィールドワークを行い、様々な取組や多様な考え方をお聞きしながら元気を戴いてきたが、コロナ禍で現地へ出かけることは出来なかった。 ・部会はオンラインで毎月欠かさずに継続的に開催し、コロナ終息後を見据えて活動について話し合うほか、新たな学びの場としても取り組んだ。(4月3日、5月8日、6月5日、7月3日、8月7日、9月3日、10月2日、11月6日、12月4日、1月16日、2月5日、3月5日*各日とも土曜日20:00~) ・近年、身近に感じるようになってきたことからもっと理解を深めたいと、LGBTQについて学ぼうと、まずは異色の台湾デジタル大臣といわれるオードリー・タンさんのニュース映像(YouTube)をオンライン部会で視聴し、意見交換を行った結果、今後さらに詳しく正しい知識を持ちたいと継続して取り組むこととなった。(7月3日<土>20:00~) ・「LGBTQを話そう」と題して、あかたちかこ先生(京都精華大学ほか非常勤講師)にオンラインでお話いただき、質問をしながら身の回りの性の多様性について意見交換をした。(9月3日<金>20:00~) ・LGBTについて部会を超えて参加を募り、「チーム紀伊水道」のお二人の当事者からお話をオンラインでお聞きした。今まで殆ど知らなかったLGBTQの方々の実情や課題などを知る貴重な機会となり、また、レインボーカラーのように多様な性自認があることについても詳しく学ぶことが出来た。(1月16日<日>10:00~) <p>7 地域ブロック会議 地域ごとの課題解決を目指して活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北に広がる和歌山県全域での活動を目指し活動しているが、主に和歌山市内(“りいぶる”会議室)で開催される各部会に、紀南地域など遠方からの出席が難しい場合もあることから、会員の住居地ごとに4ブロックに分かれて地元で話し合う「地域ブロック会議」を設けているが、コロナ禍から会議の開催は殆ど出来なかった。 <p>＜ブロックの区分＞</p> <table border="0"> <tr> <td>和歌山ブロック：和歌山市、県外</td> <td>紀北ブロック：那賀地域、伊都地域</td> </tr> <tr> <td>紀中ブロック：海草地域、御坊市</td> <td>紀南ブロック：日高郡、西牟婁地域、東牟婁地域</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・紀北ブロック会議をオンライン開催し、近況報告や第9期の活動について話し合った。(9月12日<日>10:00~) ・各自が自宅でできる取組となることからコロナ禍での活動の1つとして、防災部会が計画した設立10周年記念事業「マイ・トイレセット(*)」備蓄事業へ4ブロックが参画し、セット部材のうち新聞紙でつくる「箱型づくり」に、新聞紙が手に入る会員で取り組み、箱型の回収は毎年コロナが低調となることを見込める5月頃を予定し、各ブロック会議の開催に合わせて会場で行うこととした。(2月20日<日>10:00~*防災部会と4ブロックリーダー等参加) ・(*)マイ・トイレセット：災害時等におけるトイレとして使用する新聞紙ほかでつくる簡易トイレのセットのこと。新聞紙の箱型、レジ袋、ペットシート、ポケットティッシュ等の部材品を小袋に入れて、1人3~7日分を保管しておく。 	和歌山ブロック：和歌山市、県外	紀北ブロック：那賀地域、伊都地域	紀中ブロック：海草地域、御坊市	紀南ブロック：日高郡、西牟婁地域、東牟婁地域
和歌山ブロック：和歌山市、県外	紀北ブロック：那賀地域、伊都地域				
紀中ブロック：海草地域、御坊市	紀南ブロック：日高郡、西牟婁地域、東牟婁地域				

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>★ その他(参加等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめての ZOOM」講座 4/16、「ZOOM を主催する」HOW TO?講座 6/4 (わかやまNPOサポートセンター主催) *オンライン参加 ・県男女共同参画特別公開セミナー6/24(講師:田中俊之さん/大正大学心理社会学部准教授) ・「災害時の食と栄養」講演会 9/18 (新潟大学災害医療教育センター主催) *オンライン参加 ・「情報リテラシープログラム “すくーる” プレ講座」 11/23 (LEO-G 主催、赤松良子ジェンダー平等基金事業) *オンライン参加 ・「和歌山県ボランティアフォーラム」12/10 (和歌山県社会福祉協議会主催) *オンライン参加 ・15周年記念シンポジウム「ローカルファーストが未来をつくる」1/22 (和歌山商工会議所青年部和歌山 YEG 主催) *オンライン参加 ・「第4回災害時の連携を考える長野フォーラム」2/15(長野県災害時支援ネットワーク主催) *オンライン参加 ・データで読み解くセミナー3/2 (和歌山県<データ利活用推進センター>、総務省統計局主催) *オンライン参加
一般社団法人 和歌山県農業会議	<p>★ 女性農業委員・農地利用最適化推進委員登用促進に向けた各市町村農業委員会への働きかけ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度 農業委員及び農地利用最適化推進委員等研修会」資料において、他府県の女性農業委員・農地利用最適化推進委員が活躍した事例を研修資料に掲載し、全農業委員・農地利用最適化推進委員に配布した。 また、農業における政策・方針決定過程への女性参画の推進について、文書を通じて各市町村農業委員会に周知を図った。 <p>★ 女性の農業委員会活動推進シンポジウム等への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)全国農業会議所、全国農業委員会女性協議会が主催するオンライン研修会「令和3年度(第17回)女性の農業委員会活動推進シンポジウム」や、「令和3年度 女性の農業委員会初任者委員のための研修会」へ、県内の女性農業委員及び農業委員会事務局職員とともに参画した。 また、東海・近畿各府県の農業会議主催する「令和3年度東海・近畿ブロック女性農業委員・推進委員研修会」にも、県内の女性農業委員及び農業委員会事務局職員とともに参画した。 <p>★ 女性の農業委員登用促進、就農環境改善緊急対策等についての周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性委員登用に関するアンケート調査を通じ、農林水産省による農業委員会における女性登用の効果分析、事例集の作成・公表を支援した。 また、女性農業者の活躍推進に向け、女性の農業体験・研修の受入体制づくり、地域の女性農業者のネットワークづくり、地域で女性が働きやすい環境の整備を支援する「女性の就農環境改善緊急対策事業」(令和3年度農林水産関係補正予算)の公募開始等について、各市町村農業委員会に周知した。
特定非営利活動法人 和歌山 e かんぱにい	<p>★ ・男女共同参画推進に関わる啓発等活動事業(令和3年4月1日~令和4年3月31日):「和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”一部委託事業」受託</p>

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 和歌山eかんぱに い (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ★ ・総会記念講演「～“バスが来ましたよ”からはじまった交流～障がい者と健常者が共に生きる社会を目指して」 令和3年6月6日開催。(和歌山県男女共同参画センター”りいぶる”会議室A) 障がい者と健常者の共生が子供の自発的な行動から実現した体験を講演いただき、障害があることへの理解が深まった。 ★ ・第5次和歌山県男女共同参画基本計画(案)について検討会を重ね、和歌山県へパブリックコメントを提出した。 ★ ・関連資料の会員への提供 「おさえておきたい、離婚にまつわる法律と戸籍の知識」令和3年11月14日(参加者：8人。和歌山県男女共同参画センター会議室B) 離婚について、知っておくと役に立つ法律的な知識や、離婚により発生する子供を含めた戸籍や氏についての知識を得る講座を開催した。離婚についての相談を受ける立場である専門職の人や離婚を考える人に、それらの知識を知って、話し合いや調停に役立てる他、新しい生き方のために活用してもらうことを目的とした。 ★ 和歌山県男女共同参画センター”りいぶる”提案事業あなたに男女共同参画開催。「未婚女性の未来を語ろう～おひとりさまの住まい、相続、老後～」令和4年2月13日(ハイブリッド形式の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、原則オンライン参加のみとした。オンライン参加者8人。(事務局として、和歌山県男女共同参画センター”りいぶる”会議室A) 独身女性を対象に、おひとりさまの住まい、老親の介護や看護、自分自身の老後等への不安を経済面から軽減することを目的に企画した。この機会にZoomを初めて体験した方も数人おられ、予め練習機会を設けるなど講座受講のために支援することで、女性のICT活用促進に寄与できた。 ★ 人権尊重意識の更なる醸成にかかわる事業：ニュースレター特別号作成 令和3年3月発行(A4版100部)
特定非営利活動法人 きのくに子どもN PO	<ul style="list-style-type: none"> ★ コロナウィルスの影響下での活動 ★ 地域子育て支援拠点事業 「ほっとルームぐるんぱ」の開設。(和歌山市委託事業) <ul style="list-style-type: none"> ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進。 ・子育てコーディネーターによる子育て相談・援助の実施。地域の子育て関連情報の提供。 ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 <p>長引くコロナ禍の影響で、里帰り出産や出産時の立ち合い、付き添いも制限されて多くの母親たちは孤独な妊産婦期を過ごしている。コロナ禍のなかで人との接触を控えている親子も多く、子育て不安は増大している。そんな親子にとって、スタッフが常駐していて、いつでも誰でも気軽に利用できる地域子育て支援拠点がどれほど重要かを改めて感じている。「ぐるんぱ」はコロナ禍のなかでも、人数制限時間制限をかけずに実施した。スタッフが丁寧に話を聞き、親同士子ども同士をつなぎ、必要なら保健センターなどの相談機関につなぐこともできる。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもN PO (つづき)</p>	<p>親同士安心してつながることで、気付きを深め自ら変わっていき、その変化に私たちスタッフも学ぶことが多くあった。親たちで作る親たちの温かい居場所となっていると感じている。</p> <p>★ プレママプレパパ支援企画「みんなで赤ちゃんを迎えよう！」</p> <p>第1回 ワークショップ モビール作り 講師先輩ママ 第2回 講座「おもちゃと絵本の選び方」 講師大野久美子先生 Zoom 開催</p> <p>第3回 講座「産前産後の母体のホルモンバランスについて」 講師山田ゆかり氏 Zoom 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転勤族や和歌山市外、県外出身のママパパを対象にした企画。先輩ママ2人には事前の会議にも入ってもらい、一緒に企画運営を行なった。産後に不安なことやしんどくなった時にいつでも利用できる場所があることを知ってもらえるきっかけになったと思う。 ★ ・アウェイ育児支援企画「つながるおしゃべり会」 県外出身者のママたちの集まり実施。3回企画の予定だったが、参加者から同窓会をやってほしいという声があり、全4回の開催となった。先輩ママ2人に準備段階から協力してもらって、当日は自身の体験を語ってもらった。みんな自分の生まれ育った地域外で子育てをしているという共通の課題を持っているというだけで、そのしんどさや大変さを分かり合えるという思いがあった。ライン交換も早い段階でできていた。最終回では続いて交流していきたいという思いがみんなに共通してあったが、自立したグループになるまでは難しかった。グループラインでつながることはできたので、少しサポートをしながら自主運営のグループになれるよう支援していきたいと思う。 ★ ・ぐるんぱメール 第18号作成 “人とつながって子育て” ってなんだろう「たすけて～って人に言えますか？」 編集ママスタッフ14人で作成。 「みんなでみんなの子どもを育てる」って言うけれど、それってどういことなんだろう。人に迷惑をかけてはいけない、子育ては親である自分の責任だとどうしても思ってしまう。そんな話から今回のぐるんぱメールのテーマが決定した。それぞれのグループで何度も集まって、悩む親たちに届く内容にしたいと、回数を重ねるたびに母親たちの元々持っている力が発揮されて、思いも編集スタッフ同士の関係もぐっと深まっていく様子があった。 ★ パパの子育て支援 ・子育てパパの集まり（イクメンPaPaの会）の会議を月1回定期的に開催。 パパ主催の企画を立案したり、子どもたちの遊びの企画の時に、主体的にかかわりを持てるように準備したり「遊び」を通じて子育てに積極的にかかわる父親を増やす活動を継続して行っている。 コロナウィルスの影響で会議を開くことが難しくなっているが、オンライン形式も入れながら定例会を続けている。

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 きのくに子どもN PO (つづき)	<p>初めての試みとして父親の親の会「パパトーク」を実施した。子育てのことや趣味が共通だったりと話が盛り上がり、次の活動につながった。</p> <p>★ 和歌山市ファミリー・サポート・センター(和歌山市委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てを援助してほしい人と子育てをサポートしたい人をコーディネートし、地域で安心して子育てできるようにサポートする会員組織の運営。(令和4年3月末、全会員数 1469人) ・病児・緊急対応強化事業 子どもの病時病後時の保育に対応。 ・ファミリー・サポート・センターは一時保育をコーディネートする役割だけでなく、子育て家庭のセーフティネットとしての役割がますます大きくなっている。地域での相互援助活動の枠に入りきらない継続的援助、専門的な援助が必要なケースが増えている。行政機関や民間の支援施設等と連絡を取りながら可能な支援情報を提供するなどして、相談を受けている。 ・講習会の開催(年2回)。会員登録(スタッフ会員・提供会員・両方会員)を希望する市民に対し、子育て支援の意義や役割を理解し、具体的なスキルを学ぶ講座(24時間)を実施。サポートする会員の増加に努めてる講座は、子育て中の母親の受講も増えており、受講をきっかけに仕事や社会的活動を始める人もいて、母親のエンパワメントにつながっている。 ・交流会 サポートする会員のスキルアップのため、交流会を実施。普段顔を合わせることの少ない「スタッフ会員」「提供会員」が活動内容について気になることを話したり、意見交換する機会を作っている。 ・地域交流会 地域にファミサポを広め、会員同士交流できる場として「ファミサポキャラバン」開催。ファミリー・サポート・センターを知ってもらい、身近に感じてもらうきっかけになっている。 <p>★ ベビーシッター「きのくにっこ」「きのくにっこ mini」</p> <p>小さい子どもを持つ家庭を支援するために、必要に応じて一時的保育を提供。</p> <p>今年は、コロナの影響でしんどい思いをしている人の支援のために無料の預かりを行った。(前出)</p> <p>母親、女性対象の講座や勉強会、演奏会などの時の一時保育(グループシッター)を受けている。</p> <p>★ 「養育支援訪問事業・家事援助業務」(和歌山市)</p> <p>「和歌山市母子家庭及び寡婦、父子家庭生活支援員派遣事業委託」を受託。支援が必要な子育て家庭に対して、支援員を派遣し、行政との協力の下に子育て家庭を支えている。支援が終了したあとも、つどいの広場へつなぐなど地域での子育て支援機関と親子が継続してつながっていけるよう意識的に取り組んでいる。</p> <p>★ 児童発達支援 親と子の広場・アン、ポコ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長・発達に不安のある乳幼児を対象に、リズム遊びお絵かき、外遊びや散歩など遊びを楽しみながら五感(見る・聞く・触れる・におう・味わう)を刺激し、丈夫な体作りと豊かな発達を保障することを目的に活動

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 きのくに子どもN PO (つづき)	<p>している。保護者同士がつながりあえるよう親の会、学習会を行っている。併行通所もおこなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者で実行委員会をつくり、遠足や製作、ごっこあそびなどの行事を行っている。自分たちがしたい事、子どもが楽しめることなどそれぞれが考え、会議を重ねている。みんなで作り上げたことで達成感を感じ、自信となり、エンパワメントにつながっている。 障害者支援課など行政との話し合いの場にも、保護者が積極的にかかわっている。 ・家族が子どもへの理解を一層深められるよう、保育の中に「パパの日」や「ジジババの日」などを取り入れ、母親が孤立した育児にならないよう家族を支援する取り組みを行っている。 <p>★ 子どもの居場所「チャティーもあ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日に子どもの居場所を開催。絵本の読み聞かせ、読書活動、アート制作、外遊びと様々な活動を行っている。土曜日も仕事している家庭の子ども「学童保育」としての役割も持っている。様々の個性・特性を持つ子どもたちが、話し合いをしてやりたいことを決め、実行している。集団での活動が子どもたちの自主性や協調性を育てている。プレーリーダーが丁寧にかかわることで、お互いに違いを認め合い、尊重し合うことができるような集団となることをめざして活動している。 <p>★ 長期休暇学童保育事業 「あみはうす」</p> <p>春・夏休みに家で留守番している子ども対象に、長期休暇にしかできない遊びや集団での遊びを体験し、仲間づくりができるような学童保育を実施。ゲームやyoutubeが子どもたちの生活に大きな影響を与えているが、ネットを離れて遊びあう居場所を作っている。</p> <p>仕事で一日家を空けている保護者が安心して子どもを預けられる場を提供している。</p> <p>★ 子どもに関わる人たちの学習交流、人材育成</p> <p>「子どもの権利の視点を子育てに」3月6日(日) 講師 浜田進士さん</p> <p>★ 「子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす」 支援</p> <p>特に地域で孤立しがちな「母子家庭・父子家庭」や困りごとを抱える親子の支援を「子どもの生活支援ネットワーク こはうす」と協力し、情報を共有しながら行っている。</p> <p>居場所での集まりが難しい時はフードパントリーを実施し、親子を支援している。</p>

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
<p>一般社団法人 ガールスカウト和 歌山県連盟</p>	<p>★ 自然体験、国際交流、ボランティア体験などを通じて、考える力、行動する力、協調性を思やる心、判断力を養い将来にあらゆる状況の時も、自分で判断し、自他の幸福を願って行動できる女性の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドシンキングデイ 2022 年テーマ「私たちの世界、私たちの平等な未来～環境問題とジェンダーの平等～」海ごみの問題について考えるオンラインワークショップを開催した。 ・文部科学省委託事業として「友ヶ島探検と海の豊かさを守るワークショップ」を実施し一般の小学生が参加した。 ・年代別のキャンプの実施（野外技術習得）オンライン開催や日程変更にて実施した。 ・野外で経験するキャンプ技術を学び、生きる力を身につけるために、地域で一般の子ども達とともに「キッズ野外スキル検定」を実施した。 ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に際し、選手村で投影される、参加国の国旗を掲揚する歓迎動画メッセージの作成に協力し、欧州のアンドラ公園を担当した。 ・ガールガイド・ガールスカウト世界連盟（WAGGGS）第 37 回世界会議（オンライン）に成人会員 2 名が参加し各国と共同で議案を提出した。 <p>★ 日本連盟 100 周年事業 国際ガールズメッセ（近年、女性を取り巻く環境は大きく変化している。予測できない未来に対し、よりよい社会としていくために、SDGs の一つにある「ジェンダー平等の実現」に向けて、各種プログラムをおこなう）への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県連盟イベントとして オンラインにて講座・交流会、小学生スカウト向けイベントを開催 ・ユースメッセンジャーとして 2 名の成人会員が活動を行った。 <p>★ スウェーデン連盟との交流を行い、SNS にてメッセージを 4 回発行・配信した。中高生年代が近畿地区のオンラインイベント「近畿地区シニア部門事業」に参加「踏み出そう 自信を持って」をテーマに自己肯定感を高めるワークショップを実施、身近な問題に気づき、ジェンダー平等にもつながられるよう話し合いをした。</p>
<p>特定非営利活動法人 チーム紀伊水道</p>	<p>① 和歌山県内での交流会実施 (和歌山市:4月/6月/8月/9月/12月/2月・橋本市:5月/7月/11月/3月/コロナウイルス感染状況により中止…9月/1月・田辺市:7月/11月・御坊市:8月)</p> <p>② イベントへのブース出展、参加、企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかやま愛ダホ！2021(5月:和歌山駅地下 わかちか広場のモニタービジョンを活用した啓発活動、メディア取材による啓発・広報活動) ・レインボーフェスタ和歌山 2021(10月3日:和歌山城砂の丸広場 ブース出展を通じた啓発活動) ・サンバ(産婆)フェスタ 2021(11月3日:南海波切ホール/大阪府岸和田市 ブース出展を通じた啓発活動) ・ふれあい人権フェスタでのブース出展(11月20日:和歌山ビッグホエール ブース出展を通じた啓発活動) ・レインボーフェスタ和歌山 2022(3月26日・27日:和歌山城西の丸広場 ブース出展/レインボーパレード参加を通じた啓発活動)

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 チーム紀伊水道 (つづき)	<p>③ メディア出演/SNS を通じた啓発・広報活動 新聞/テレビ/ラジオ/ネット/ホームページ/Twitter/Facebook/Instagram を通じた啓発・広報活動を随時行っている</p> <p>④ メール相談/対面での個別相談実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性自認や性的指向に関するメール相談を随時実施 ・2021年8月～、対面での個別相談(交流会等の会場)で随時実施 <p>⑤ 講師派遣による講演活動と講座の企画/開催及び、セクシュアルマイノリティ/LGBTQに関するインタビューに関する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県生駒市の看護専門学校での生徒向けの講演 ・大阪府高槻市の小中学校教員/養護教員向けの研修講演 ・大阪府松原市の中学校教員向けの研修講演 ・大阪府立の高校(阪南市)の教職員向けの研修講演 ・和歌山県立の高校(和歌山市)での生徒(高校1年生)への講演 ・和歌山県労働委員会での研修講演 ・和歌山県立の通信制高校での講演(対象:生徒・教員・一般) ・新宮/東牟婁圏域自立支援協議会での研修講演(太地町/ハイブリッド開催) ・西牟婁地方養護教諭研究会での研修講演(田辺市) ・和歌山県立の高校(和歌山市)での生徒(高校2年生)への講演 ・橋本市主催 セクシュアルマイノリティの人権に関する研修会での講演(8月に会場開催/11月～1月にオンライン配信:申し込み制、動画編集はチーム紀伊水道が担当) ・チーム紀伊水道主催 にじわか*知ってもらいたい2021「和歌山でパートナーと一緒に住らよ in 田辺」開催(田辺市) <p>講師:NPO 法人カラフルブランケッツ(大阪) 理事長:井上ひとみ 氏/副理事長:瓜本淳子 氏 (2022年1月15日開催 参加者22名、講師・スタッフ6名、メディア取材:4社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行関係の企業からの調査研究協力(オンライン) ・大学院生(保健師課程)の研究活動協力(アンケート調査) ・私立(大阪府高石市)高校での授業活動で生徒からのインタビュー協力(オンライン) ・私立(神奈川県横浜市)高校での授業活動で生徒からのインタビュー協力(オンライン) ・和歌山県立の高校(御坊市)での授業活動で生徒からのインタビュー協力(オンライン) ・田辺市立の中学校での授業活動で生徒からのインタビュー協力(オンラインと対面のハイブリット方式で実施) ・国立大学付属中学校(和歌山市)での授業活動で生徒からのインタビュー協力(依頼を受けたが、新型コロナウイルスの影響により実施が取りやめになった)

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
公益財団法人 和歌山県看護協会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 看護職員の定着促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ ナース相談窓口（土、日、祝日を除く毎日）看護研修センター 3,411 件 ・ ナースお仕事相談（月 4 回） ハローワーク和歌山・田辺 実施回数 45 回、延べ来所者 40 名 保健師助産師看護師三職能合同研修会 ★ 「地域共生社会の実現に向けて」講演とシンポジウム 出席者 91 名 再就業促進研修・交流会 出席者 10 名 ★ 施設会員代表者会「県内病院におけるハラスメント対策の現状」「ハラスメント対策と予防対策における看護管理者の役割」について 出席者 95 名 ★ 潜在看護職復職支援研修 講義・技術演習・病院実習・訪問看護ステーション実習 ★ 6日コース 受講者 12 名
和歌山県母と子の 健康づくり運動協 議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 母子保健・健全育成住民会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子保健事業を活発に推進し、保健師・保育士・母子保健推進員など子育てを支援する職種や子育て中の一般住民等の参加による大会をオンラインで開催し、222 名の参加があった。 ・ 地域での子育て支援の実践発表 「きみのフルーツ子育て奮闘記〜I ターン・紀美野町での挑戦」 ・ 講演「気になる子どもを知る」 ★ 各支部（振興局単位）における活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子保健に関する研修会 ・ 親子教室等の開催 ・ 家庭訪問等の活動時に育児支援に関する啓発リーフレットを配布した。
和歌山県和裁協会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 11 月 22 日、26 日「ものづくり魅力講座」あずま袋の制作と着物着付け体験 海南市立下津第二中学校 ※コロナの為中止 ★ 12 月 10 日 第 18 回老人介護施設へ綿入れちゃんちゃんこ 27 枚贈呈 ★ 1 月 24 日「ものづくり魅力講座」あずま袋の制作 和歌山市立楠見西小学校 ※コロナの為中止
和歌山県交通安全 母の会連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ★ 通常総会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内 27 地区の会員が集まり、交通安全功労者に対する表彰を行うとともに、令和 3 年度事業報告・決算報告、令和 4 年度事業計画・予算審議、研修会実施 ★ 高齢者世帯訪問活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全教室などに参加できない高齢者宅を選定の上、会員が実際に高齢者宅を訪問し、交通安全指導を行うとともに反射材等の啓発物品を配布した。（2, 846 世帯訪問） ★ 募金活動への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内ラジオ放送局主催の募金活動に参加した。当該募金活動は、目の不自由な方を補助する「音の出る信号機」を設置すること等を目的に行われているもので、令和 4 年 3 月末時点で同信号機の設置率は全国 1 位。 ★ 園児等に対する交通安全教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内各地の幼稚園や保育園、小学校で行われる交通安全教室に参加し、正しい横断歩道の渡り方や自転車の乗り方などを教育した。 ★ 通学路等における見守り活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県通学路等において、通学する小学生や買い物に出かける高齢者の見守り活動

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
和歌山県交通安全母の会連絡協議会 (つづき)	<p>を行った。</p> <p>★ 各季の交通安全運動行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 各季の交通安全運動の際に県内各地で行われる啓発活動に参加し、啓発物品を配布するとともに交通事故防止を呼び掛けた。